

本部試験地の鳥類相

二村 一男

はじめに

著者は、すでに京都府北部の原生林に近いと思われる落葉広葉樹林帯下部の芦生演習林、北海道東部の落葉広葉樹林帯上部の京大北海道演習林、山口県の徳山市街地北部に隣接し常緑（照葉）広葉樹林帯の徳山試験地、それに同様常緑（照葉）広葉樹林帯に位置し京都市街地に隣接する里山の上賀茂試験地の鳥類相を検討した。

近年、もともと山地に生息する鳥類が市街地に進出する傾向をみせるといわれる。そこで、今回はこれまでの調査地とはやや環境の異なり市街地の中に島状の緑地的機能を有する京都市北部の京都大学北部構内の鳥類相を調べた。具体的には農学部附属演習林本部試験地を中心に、それに隣接する理学部附属植物園の鳥類の構成状態を調べた。京都大学構内は創設以来95年におよぶ歴史のなかでクスノキやエノキの巨木をはじめ数多くの樹木が生育し、ここで活動をしている教職員や学生に緑のうるおいを与えている。そのなかでも北部構内は最も樹木の本数、種数も多く、空間的にも余裕のある土地利用がされている。そこで1980年から1981年までと1984年から1991年5月までの8年間にわたり鳥類相の調査を行い、25科57種を確認した。

報告に際して、鳥類の情報などに協力していただいた本部試験地の樫木達也氏、京都大学演習林の川那辺三郎教授、さらに常々御教示いただいている演習林の大畠誠一助教授に厚くお礼申し上げる。

調査地および調査方法

京都大学は京都市街地の北東部にあり、JR 京都駅より約7.1kmに位置する（図1）。京都大学北部構内（20.9ha）は大正12年に農学部が創設され、本部試験地（以下本試と省略する）は大正13年に開設され、北部構内の北西部にある。標高は、56～63mで面積は1.29ヘクタールである（図2）。周辺は市街区に隣接し、すぐ南方には吉田山（120m）、東方には東山連山の如意ガ岳（459m）、四明岳（848m）があり、北西約1kmほど離れて「糺の森」で親しまれている下賀茂神社などがある。年平均気温は14.8℃、年降水量は1,368mmで数年に一度積雪をみることもある。試験地の周囲は樹木園がとり囲み、その中が実験・研究用苗畑で、入口付近には事務所、温室、材鑑標本館などがあり、全体に公園風に区画整備されている。樹木園に植栽されている主な樹種は、国内産のトドマツ、トウヒ、カラマツ、エノキ、クスノキ、ブナノキなどと外国産のテーダマツ、ハクシヨウ、センペルセコイア、ユリノキなどで、真鍋¹⁾によれば高木から低木にいたるまで内外国産樹種は約400種におよんでいる。本試の北側は民家、西側は農学部附属農場京都農場（約2.48ha）の果樹園、水田、畑などが、東側は農学部のグラウンド、南側は農学部総合館

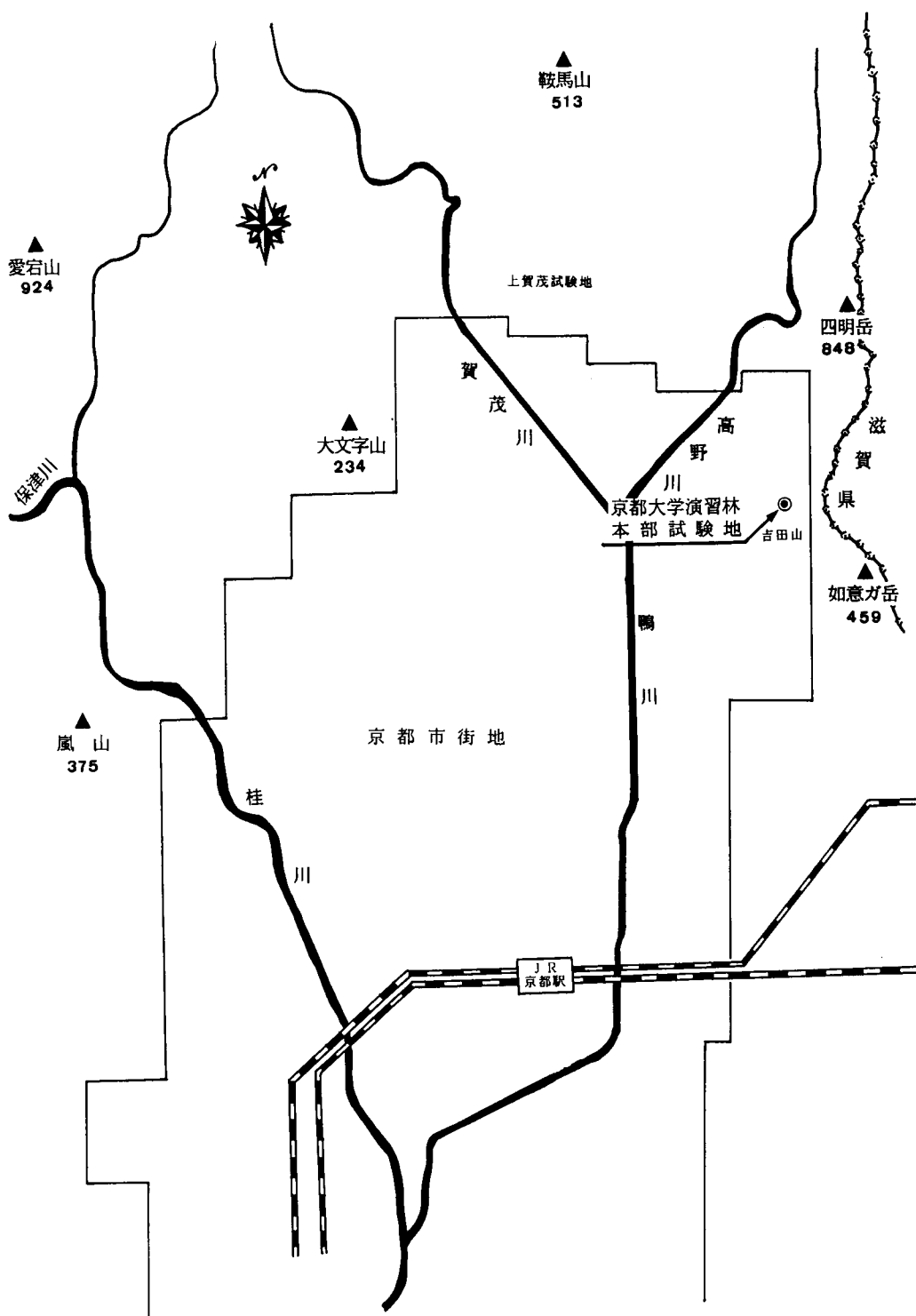


図1 本部試験地位置図

の北端には演習林事務室（以下演習林と省略する）などがとりまき、本試の中央には小さな丸池がある。東側は大正12年に開設された理学部附属植物園（約1.65ha）などが隣接している。植物園は落葉広葉樹の高木（約100種、約500本）が主体で全体がこんもりとした森を形づくっている。植物園の西端には約300m²の池がありヨシ、コウホネなどの水生植物が生育し、ときどきカモ類、サギ類、カワセミなどが採餌や休息にやってくる。

鳥類の確認・生態観察には、四季を通じ9倍の双眼鏡を使用した。鳥類目録の配列順序は、日本鳥類目録改訂第5版（日本鳥類学会1974）、和名と学名は小林²⁾によった。観察例の少ないものは、観察年月日を記録し、観察記事をできるだけつけ加えた。

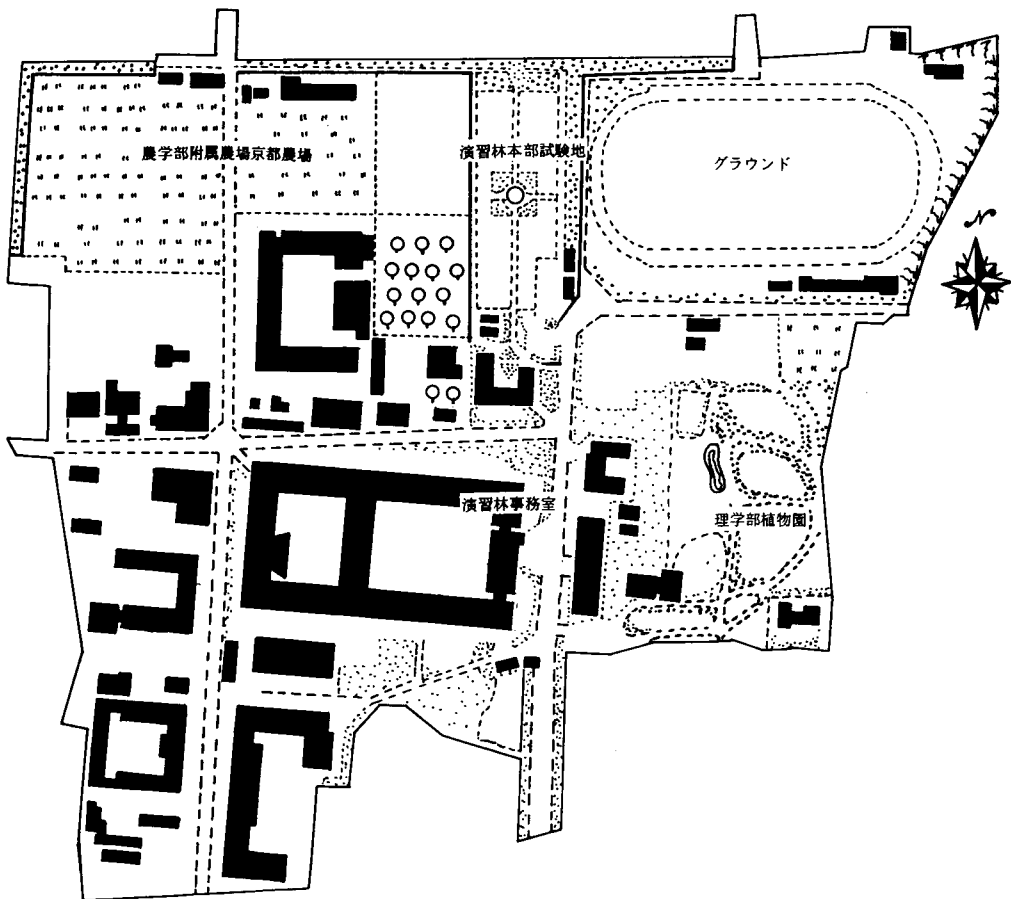


図2 本部試験地および周辺図

調 査 結 果

本部試験地の鳥類目録

CICONIIFORMES コウノトリ目

ARDEIDAE サギ科

Gorsakius goisagi (Temminck) ミゾゴイ

'85.5.9植物園の池で1羽。

Nycticorax nycticorax nycticorax (Linnaeus) ゴイサギ

植物園の池や本試の丸池で単独で採餌している個体を観察することがある。また、夕方に3～5羽通過または鳴き声を聞くこともある。'89.10.31植物園付近で若鳥の死個体。

Egretta garzetta garzetta (Linnaeus) コサギ

周年生息し、おもに植物園の池に1～2羽が採餌にやってくる。また、時々本試やグラウンドの上空を通過する数個体を観察した。

Ardea cinerea jouyi Clark アオサギ

単独で植物園の池や本試を通過する。'86.4.25本試, '89.5.23植物園の池, '89.9.5演習林, '90.1.26, 9.3本試, いずれも1羽通過。

ANSERIFORMES ガンカモ目

ANATIDAE ガンカモ科

Anas platyrhynchos platyrhynchos Linnaeus マガモ

'90.3.10植物園の池に雌1羽がカルガモ1羽と飛来。

Anas poecilorhyncha zonorhyncha Swinhoe カルガモ

'90.3.10植物園の池に1羽がマガモ雌1羽と飛来。

FALCONIFORMES ワシタカ目

ACCIPITRIDAE ワシタカ科

Milvus migrans lineatus (Gray) トビ

'87.12.9本試の上空を1羽が飛翔。

Accipiter gularis gularis (Temminck & Schlegel) ツミ

'85.11.20ツミの雄が追跡中のツグミが事務室の窓ガラスに衝突死した。そのツグミを食べていたが、すぐに持ち去る。

Accipiter nisus nisosimilis (Tickell) ハイタカ

'90.8.21グラウンドで通過個体の1羽を観察。

GALLIFORMES キジ目

PHASIANIDAE キジ科

Bambusicola thoracica thoracica (Temminck) コジュケイ

'85.1植物園で鳴き声を聞く(樺木)。

CHARADRIIFORMES チドリ目

LARIDAE カモメ科

Larus ridibundus sibiricus Buturlin ユリカモメ

9月下旬ころ鴨川、桂川、宇治川などに冬鳥として多く渡来し、京都の冬の風物詩として親しまれている。午後3時ころ琵琶湖のねぐらに移動する200~300羽の群れを演習林上空で時々見ることがある。

COLUMBIFORMES ハト目

COLUMBIDAE ハト科

Streptopelia orientalis orientalis (Latham) キジバト

本試、植物園、演習林、グラウンドなどの周辺で周年生息し、単独でいることが多く、時には5~6羽程度の群れを観察することもある。

CUCULIFORMES ホトトギス目

CUCULIDAE ホトトギス科

Cuculu canorus telephonus Heine カッコウ

'90.6.18本試付近で渡り途中と思われる個体の鳴き声を聞く。

Cuculus saturatus horsfieldi Moore ツツドリ

'84.5.7植物園で渡り途中と思われる個体の鳴き声を聞く。'91.10.14本試の事務室の窓ガラスに1羽衝突死した。

Cuculus poliocephalus poliocephalus Latham ホトトギス

'80.6.11グラウンド付近で渡り途中と思われる個体の鳴き声を聞く。

STRIGIFORMES フクロウ目

STRIGIDAE フクロウ科

Ninox scutulata japonica (Temminck & Schlegel) アオバズク

'84.6.1グラウンド付近、'86.7.24、9.1植物園でいずれも夜間に鳴き声を聞く。京都市内の神社や京都御苑の森には夏鳥として渡来して繁殖している。

CORACIFORMES ブッポウソウ目

ALCEDINIDAE カワセミ科

Alcedo atthis bengalensis Gmelin カワセミ

おもに春に植物園の池に時々採餌にやってくる。また、本試の丸池に飛来したこともあった。

PICIFORMES キツツキ目

PICIDAE キツツキ科

Picus awokera awokera Temminck アオゲラ

おもに秋から冬にかけて時々植物園で鳴き声を聞くことがある。'88.2.20雄1羽を観察した。

Dendrocopos kizuki (Temminck) コゲラ

本試や植物園、演習林、グラウンド付近で数個体が周年生息。

PASSERIFORMES スズメ目

HIRUNDINIDAE ツバメ科

Hirundo rustica gutturalis Scopoli ツバメ

4月中旬から10月中旬にかけて1～3羽程度が本試や植物園、グラウンド付近の上空を飛翔する。'88.5.31グラウンドでコシアカツバメと混群30羽。本試の丸池に4～5羽が吸水にくることもある。

Hirundo daurica japonica Temminck & Schlegel コシアカツバメ

'87.6.22グラウンドで3羽。'88.5.31グラウンドでツバメと混群15羽。

MOTACILLIDAE セキレイ科

Motacilla cinerea robusta (Brehm) キセキレイ

4月上旬から8月下旬にかけて演習林付近や本試で1～2羽を見る。まれに1月と12月に飛来することもある。

Motacilla alba lugens Gloger ハクセキレイ

'85.12, 12.27いずれも演習林付近で1羽。

Motacilla grandis Sharpe セグロセキレイ

4月下旬から8月下旬にかけて演習林や本試で1～2羽程度見るが少ない。'84.5.18に演習林付近で巣材集めや交尾行動を観察し、幼鳥を2羽観察したので繁殖していると思われる。

PYCNONOTIDAE ヒヨドリ科

Hypsipetes amaurotis amaurotis (Temminck) ヒヨドリ

周年生息し、個体数も比較的多い。通常5～10羽程度行動しているが秋から冬にかけて30～200羽の群れを見ることもある。本試のツバキの枝で営巣（雛5羽）し、6月上旬に若鳥をよくみる。ピラカンサ、ヤマモモ、イチイ、ソメイヨシノ、ユリノキの実や餌台のミカンの実をよく食べ、ツバキ、ユリノキ、ソメイヨシノ、コブシなどの花の蜜をよく吸う。'87.5.30, 6.25に本試で白化個体（アルビノ）1羽を観察。'90.7.26演習林でホンダイタチに2羽が威嚇していた。

LANIIDAE モズ科

Lanius bucephalus bucephalus Temminck & Schlegel モズ

春と秋から冬にかけて本試、植物園、演習林付近でそれぞれ雄1羽を観察する。高鳴きは10月上旬から中旬である。

BOMBYCILLIDAE レンジャク科

Bombycilla japonica (Siebold) ヒレンジャク

市街地では、おもに春の渡去の折に時々観察されることが多い。'85.3.6～4.19に植物園、農場、演習林付近で8～60羽を観察した。'89.3.30～31今出川通の電線で20～40羽。'89.4.3グラウンドで30羽。'91.1.20グラウンドで10羽。

Bombycilla garrulus centralasiae Poliakov キレンジャク

'85.3.13演習林付近で5羽、3.16植物園で10羽、いずれもヒレンジャクの群れに混じる。'88.12.8本試で3羽がエノキの実を食べていた。

TURDIDAE ツグミ亜科

Tarsiger cyanurus cyanurus (Pallas) ルリビタキ

冬鳥として渡来し、11月から3月にかけて1～3羽程度が時々観察できるが、数は少ない。地上や林縁の藪に多い。

Phoenicurus auroeus auroeus (pallas) ジョウビタキ

10月から3月下旬にかけて本試の苗畑付近や演習林、植物園で1～2羽が観察できる。ほとんど雄である。平均して10月25～27日に渡来する。

Zoothera dama aurea (Holandre) トラツグミ

'88.4.14, '90.1.7いずれも本試で1羽観察した。

Turdus pallidus Gmelin シロハラ

冬鳥としてわずかに渡来するが、数は少なく、1月中旬から4月中旬にかけて1～3羽本試や植物園の林の地上でみられることが多い。'91.2.15本試の窓ガラスに1羽が衝突死した。

Turdus naumanni eunomus Temminck ツグミ

11月中旬に冬鳥として渡来する。おもに1～10羽程度で本試、植物園、農場の果樹園で見られる。

SYLVIIDAE ウグイス亜科

Urosphena squameiceps (Swinhoe) ヤブサメ

藪の中を漂行するので姿を見ることはほとんどできない。'91.4.22～23, 5.7に吉田山で春の渡りの途中と思われる個体の鳴き声を聞く。

Cettia diphone cantans (Temminck & Schlegel) ウグイス

本試、植物園、演習林付近で7～9月を除いて3～4羽が生息する。初鳴きは3月20日頃である。

Phylloscopus borealis xanthodryas (Swinhoe) メボソムシクイ

'90.5.9, 5.20に吉田山で渡りの途中と思われる個体の鳴き声を聞く。

Phylloscopus occipitalis coronatus (Temminck & Schlegel) センダイムシクイ

'84.5.11グラウンド, '91.5.7吉田山で渡りの途中と思われる個体の鳴き声を聞く。

Muscicapa latirostris Raffles コサメビタキ

'84.5.11に植物園で渡りの途中と思われる1羽を観察。

AEGITHALIDAE エナガ科

Aegithalos caudatus trivirgatus (Temminck & Schlegel) エナガ

7～8月を除いて生息する。秋から冬にかけて10～40羽の群れとなり、シジュウカラ、ヤマガラ、メジロなどと混群になることもある。'80.4.30に植物園で巣材運びをする個体を観察したので繁殖していると思われる。

PARIDAE シジュウカラ科

Parus varius varius Temminck & Schlegel ヤマガラ

時々観察するが数は少ない。'87.10.5～6, '89.10.13本試でハクショウの実を食べていた。秋から冬にかけてエナガ、シジュウカラ、メジロと混群になることもある。

Parus major minor Temminck & Schlegel シジュウカラ

周年生息するが数は少ない。5月下旬から6月下旬に2～5羽程度の若鳥をみかけるので繁殖していると思われる。ユリノキの花に吸蜜にやってくる。秋から冬にかけてヤマガラ、エナガ、メジロと混群になることもある。2月下旬頃さえずりを聞くこともある。

ZOSTEROPIDAE メジロ科

Zosteropa japonica japonica Temminck & Schlegel メジロ

8月, 11~12月を除いて生息し, 比較的よく観察できる。1~5羽程度で行動している。ツバキ, ユリノキ, シリブカガシの枝で営巣する。ユリノキ, サンシュユ, サルスベリの花に吸蜜にやってくる。ミノムシを食べることもあった。秋から冬にかけてヤマガラ, シジュウカラ, エナガと混群となることもある。

EMBERIZIDAE ホオジロ科

Emberiza cioides ciopsis Bonnaparte ホオジロ

秋から冬にかけて1~5羽程度観察するが数は少ない。'88.2.19~20アカザの実を食べていた。

Emberiza rustica latifascia Portenko カシラダカ

'85.12.7本試で1羽観察。

Emberiza elegans elegans Temminck ミヤマホオジロ

'87.1.19本試で雄2羽, 雌3羽観察する(樺木)。

Emberiza spodocephala personata Temminck アオジ

'92.1.3本試で1羽観察。

FRINGILLIDAE アトリ科

Fringilla montifringilla Linnaeus アトリ

冬鳥として渡来するが少ない。'89.11.30演習林付近で約50羽観察。'91.4.25本試の事務所の窓ガラスに1羽が衝突する。

Carduelis sinica minor (Temminck & Schlegel) カワラヒワ

1月から6月にかけて生息するが数は少ない。冬期15~30羽程度の群れを見ることもある。

Carduelis spinus (Linnaeus) マヒワ

'91.4.226羽観察する(樺木)。

Eophona personata personata (Temminck & Schlegel) イカル

周年生息し, よく観察できる。10~20羽程度の群れのことが多いが, まれに70~300羽程度の群れのこともある。エノキ, ユリノキの実を好んで食べ, 地上で採餌することもある。3月下旬になるとよく鳴くようになる。

Coccothraustes coccothraustes japonicus Temminck & Schlegel シメ

おもに冬期1~2羽を時々観察するが少ない。3~5月に観察することもある。'86.12.13, イチイの実を食べていた。'80.4.30植物園で夏羽雄1羽を観察。

PLOCEIDAE ハタオリドリ科

Passer montanus saturatus Stejneger スズメ

10~12月を除いて演習林付近で生息する。通常10羽程度の群れのことが多いが50~60羽の群れを観察することもある。巣材運びや巣立ち雛に給餌している個体を観察したので繁殖していると思われる。

STURNIDAE ムクドリ科

Sturnus cineraceus Temminck ムクドリ

5～10羽程度で行動していることが多いが、冬期に農場の果樹園の地上で20～100羽の群れを見られることもある。本試や演習林付近のやや開けた場所を好むようである。

Sturnus philippensis (Forster) コムクドリ

'80.4.30植物園で1羽がオニグルミの新芽を食べていた。

CORVIDAE カラス科

Garrulus glandarius japonicus Temminck & Schlegel カケス

'91.5.23本試で1羽を観察。

Corvus corone orientalis Eversmann ハシボソガラス

本試、植物園、演習林付近で2～3羽が周年生息する。5月中旬から6月中旬に2～3羽の若鳥を見られることもある。

Corvus macrorhynchos japonensis Bonaparte ハシブトガラス

'87.8.20演習林付近で1羽を観察。

考 察

本部試験地および隣接地で生息が確認できた種数は25科57種であった。鳥類の渡りの習性として大別してみると、留鳥は約42%、冬鳥は約28%、旅鳥は約25%、夏鳥は約3%である。このような鳥類相と市街地における緑地との関係についてみると、真鍋ら³⁾が調査した京都大学の構内植生調査によると胸高直径（地上高1.3mの位置の直径）30cm以上の大径木は7つのブロックのうちで北部構内が579本、1ヘクタール当たり28本で最も多く、その半数以上が演習林と植物園に分布しているとのべている。その主要な樹種はマツ属、イチョウ、クスノキ、エノキ、ヒマヤシダーである。さらに、真鍋¹⁾は本部試験地内に約400種にのぼる多様な樹木が植栽されていることを報告しているが、この多様な樹種の存在と、それらが分布する空間は鳥類にとって、生息・越冬・繁殖・渡り途中の休息地として重要な役割を果たしているといえよう。

本試験地と同じような環境を調査した石田⁴⁾によると種数と面積との関係は、10ha程度の緑地では10.5種が標準と述べており、本試験地に生息する種数はこれに比べると多いといえる。これは本試験地が「鳥島の緑地」とはいえ、里山的な吉田山、如意ヶ岳などの麓に位置するため相互の行ききが可能であることによるものと思われる。その種はツミ、ハイタカ、アオバズク、アオゲラ、カケス、ハシブトガラスなどである。また、北部構内にはドバトが周年生息し、農学部総合館（5階建）の上部の隙間を10数羽がねぐらとして利用している。本部試験地の北方約9kmに位置する都会に隣接した里山の本学の上賀茂試験地（面積50.8ha）で著者⁵⁾が調査した鳥類相が本部試験地と似通っているのも、このことを証明するものであろう。山地から市街地に進出して留鳥となった種で本試験地で観察されるのはキジバト、コゲラ、ヒヨドリ、シジュウカラ、メジロなどで、このうちヒヨドリ、メジロが繁殖している。このように北部構内のうちでも本部試験地とその周辺の樹木や花木などに四季を通じ飛来する鳥類は我々に潤いを与えてくれる。今後、これら鳥類の生息空間としての緑地の管理について、十分な配慮が必要であろう。

引 用 文 献

- 1) 真鍋逸平(1990)本部試験地の樹木目録. 京大演集報. 20.68～87.
- 2) 小林桂助(1956)原色日本鳥類図鑑. 保育社. 大阪. pp284
- 3) 真鍋逸平・安藤 信・川那辺三郎(1991)京都大学構内植生調査Ⅰ—大径木の樹種構成と管理状況の構

内ブロック間の比較－. 京大演集報. 21.65～77.

- 4) 石田 健(1988)東京大学農学部附属演習林田無試験地における主要な鳥類の生息状況－島状に隔離された緑地の鳥類相について－. 東大演報. 80.193～201.
- 5) 二村一男(1991)上賀茂試験地の鳥類相. 京大演集報. 22.1～12.